

システムの名称：プロフィットシステム

第1章 システムの基本的な考え方

1.1 システムの基本的な考え方

従来、日本人の暮らしには、木へのこだわりが強く、本当の意味でのやわらかい住環境を求めている。人々は人生を豊かにし、質の高いやさしいにおいのする住空間に木の魅力を求めている。一般ユーザーからは、生活の中で建物に対する強度の問題を強く求められてくる。また施工側からの問題としては、

- ①建築コスト ②材料の質 ③大工の人材確保 ④大工のコスト
- ⑤工期 ⑥資金早期回収 ⑦加工技術の均一化 ⑧供給流通コスト
- ⑨施工簡略化 ⑩ゴミ処理 ⑪作業安全確保

色々な諸問題が生じてくる。あえて木の文化を守りながら解決していくには、合理化の向上を図る事を目的にしなければならない。

元来合理化とは、そういった無理無駄をいかに省き、効果を発揮していくかにある。

その考え方から、このシステムが開発された。

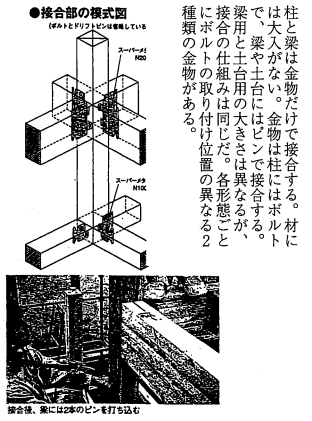
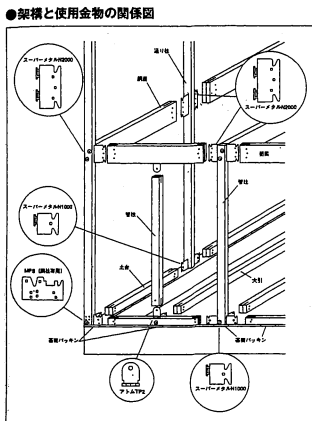
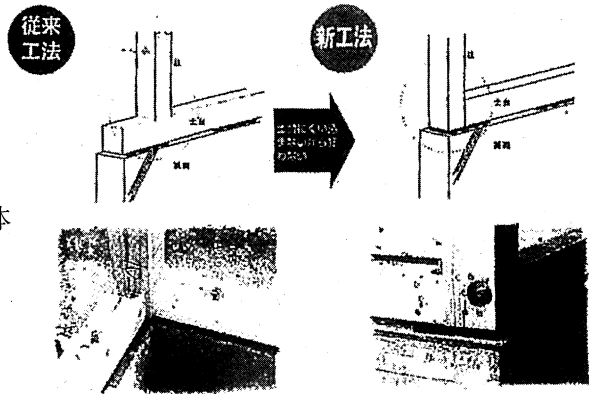
1.2 システムの特徴

- (1) 構造材の標準化及び、床、壁のパネル化によって強度と工期の短縮を図っている。
- (2) 継手は、専用のオリジナル金物（モッケン金物）で接合する工法により、ホールダウン金物を極力省き、且つメタルの取付も工場で行い、品質の向上と大工の作業能力を図っている。
- (3) 外壁断熱パネル（ウレタン40mm充填）、内部パネル化は工場加工され、現場で柱と柱の間に組み込まれ、強度と断熱気密を図っている。
- (4) 土台、通し柱は、材料にばらつきが無い。
構造用LVLの含水率10%以内で、反り、収縮の少ない材料を使用し、耐久性の向上を図った。
- (5) 24mm構造用合板を使用し、プラットフォームを先行させ安全性の向上を図った。
- (6) 構造体、床、外壁、内壁パネル、垂木と現場加工を95%カットし、且つすべて工場加工による施工の均一化を図った。
- (7) 大工工数の削減を図ることにより大工手間の合理化を図った。
- (8) 部品化による現場での産業廃棄物の削減を実行し、現場環境美化の向上を図った。
- (9) 部材の約半数を統一化出来、ストックによる材料コスト、加工コストの削減を図った。
- (10) 最大の特徴は、柱を土台の上ではなく、基礎の上に柱勝ちにしたため荷重による、ひずみのクレームが施工店側になくなった。クレームコストの削減が図れた。

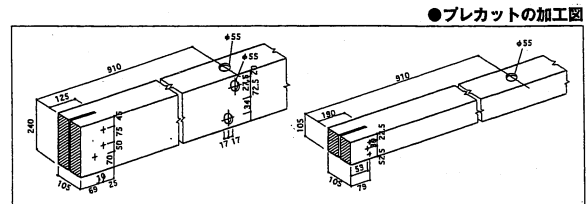
第2章 システムの概要

2.1 構法について

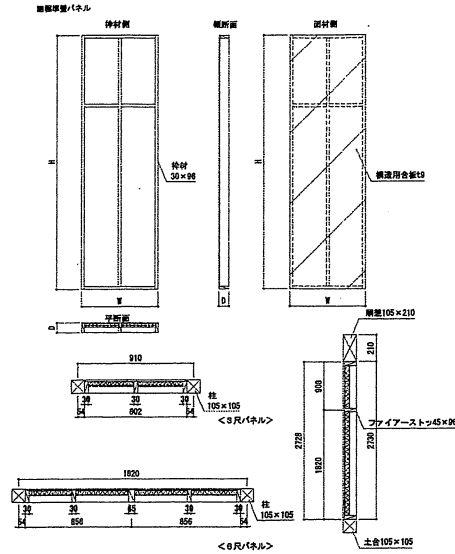
- (1) 基礎に直接、柱を立てる。
通し柱と隅柱は、基礎に直接落とし込むのが特徴。
土台の上に柱では直接荷重の為、土台が変形し、躯体のズレや歪みが生じてくる。
- (2) 接合部関係図



柱と梁は金物だけで接合する。材には大入がない。金物は柱にはピンで、梁や土台にはピンで接合する。梁と土台の大きさは異なるが、接合の仕組みは同じ。各形態ごとにボルトの取り付け位置の異なる2種類の金物がある。

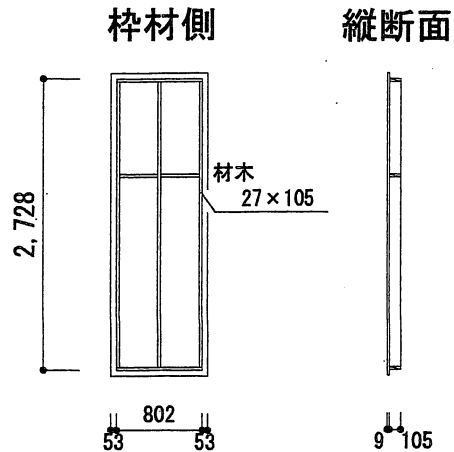


(3) 壁パネルの構成 標準パネル及び標準パネル②がある。 ■標準パネル②



<標準壁パネル>

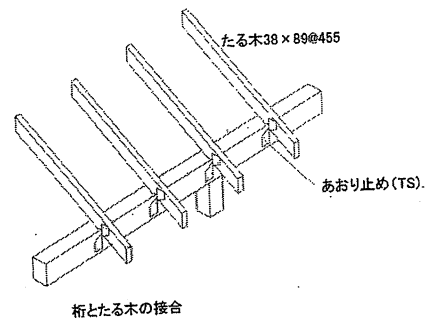
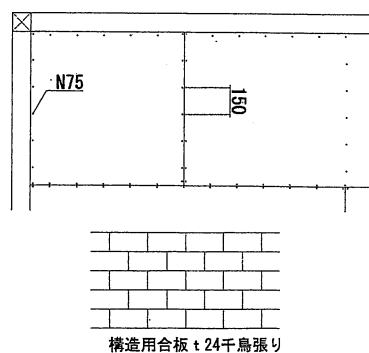
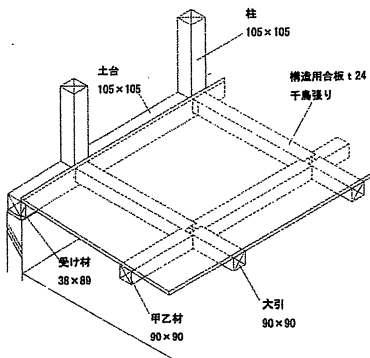
- 壁パネルは枠材30mm×96mm、ファイアーストッ材45mm×96mmと構造用合板t9mmからなり、柱内充填とする。
- 構造用合板は構造用合板のJASに適合するもので、種類は特類とし、厚さは9mmを標準とする。
- 構造用合板の枠材への張り方は次による。
イ. 構造用合板は3×6板(910mm×1820mm)、又は3×9板(910mm×2730mm)を縦張りとする。
ロ. 構造用合板は枠材にN50釘で間隔150mm以下に平打ち固定とする。
- 壁パネルの構造躯体への取り付けは次による。
イ. 1階壁パネルの外周外枠材は、構造躯体の柱及び土台等の横架材に突き付けし、CN75釘により間隔200mm以下で平打ち固定する。
ロ. 2階以上の壁パネルの下枠も同様に固定する。



<標準壁パネル②>

- 壁パネルは、枠材27mm×105mmと構造用合板t9mmからなり、耳付きパネルとする。
- 構造用合板は構造用合板のJASに適合するもので、種類は特類とし、厚さは9mmを標準とする。
- 構造用合板の枠材への張り方は次による。
イ. 構造用合板は3'×6'版(910mm×1820mm)又は、3'×9'版(910mm×2730mm)を縦張りとする。
ロ. 構造用合板は、枠材及び土台、柱、梁材にN-50釘で間隔150mm以下に平打ち固定する。
- 壁パネルの構造躯体への取り付けは次による。
イ. 壁パネルの外周枠材を、構造躯体の柱及び土台等の横架材に突き付けし、N-75釘により間隔200mm以下で平打ち固定する。
- 幅3尺を超える壁パネルは、枠材45mm×105mmを合板継ぎ目の下地とし、壁パネルをつなぐ。

(4) 床組、小屋組の構成 (ネダレス工法)



第3章 供給体制について

営業：商品開発、マニュアル作成、構造計算は自社で行い、設計、施工に関する対応は一貫して、各会員工務店が行う。

設計：CADシステムによる図面をもとに、2階建、3階建の構造計算をフォローし、迅速に顧客の対応を行う。

資材：提携プレカット会社より現場直送、提携パネル工場より現場直送。

すべての物流コントロールは自社一貫のシステムで行う。

資材メーカーより計画在庫(1ヶ月在庫)をさせ資材コストの削減を図る。

施工：施工店の大工教育を行う。技術の均一化、施工の均一化を図っている。施工勉強も行う。

第4章 維持管理について

(1) 維持管理補修サービス

- 維持管理は35年の保全計画。
- 引き渡し後、3ヶ月目、1年目、2年目、3年目、5年目、7年目、10年目、15年目、20年目まで無償にて定期点検を実施し、以降5年毎に有償で定期点検を実施する。
- 施主の要望により問い合わせがあった場合は、訪問し調査、修繕を行う。

(2) 保全計画書

- | | |
|--------------------|--------------|
| ①一般事項(施主名、所在地、引渡日) | ②主な点検事項、点検時期 |
| ③保全対象となる現象 | ④適応外の内容 |